

## ●授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	環境と健康	本講義においては、産業化が進んだ将来を常に考えながら、自然環境、人工環境、労働環境における諸問題に関する科学的知識、生体影響および将来の展望などについて講義を行う。これらを通して我々を取りまく環境側の要因の把握およびその影響についての理解を深め、環境と健康とのかかわりに関する基本的および総合的評価ができる研究思考を育む。	辻
2	微粒子の計測、評価とリスク	大気環境中に浮遊するPM2.5や粉じんなどの粒子状物質はエアロゾルと称され、呼吸器を中心に健康に影響を与える可能性がある。特に産業で使用される粒子状物質の吸入曝露による健康障害は産業医学における重要な課題の一つである。これらの健康影響を抑えるためには、大気中に存在している粒子状物質の濃度を計測するとともに、その特性を評価する必要がある。また、その危険性および有害性等の調査(リスクアセスメント)においては許容濃度を決定し、曝露濃度を許容濃度未満に保つために様々な措置を講じる必要がある。本講義では、微粒子の計測、特性評価と有害性の検討に関する研究事例を紹介することで、エアロゾルとしての微粒子の計測、評価とリスクについて概説する。	東
3	プレゼンティーズム	体調不良を抱えたまま出社することによって生じる生産性への影響に関心が高まっている。プレゼンティーズムの学術的な背景を理解するとともに、プレゼンティーズムが産業保健にもたらすパラダイムについて、従来の安全配慮義務に準じた産業保健と比較しながら紹介する。	藤野
4	産業医学におけるフィールド疫学研究	産業医学研究において労働現場のデータを収集し分析するフィールド調査は不可欠である。本講義ではフィールド疫学研究に必要な準備や実施方法等について、実例を交えて解説する。	大河原
5	衛生仮説と寄生虫症	感染性微生物への暴露が免疫疾患に与える影響には、正と負の側面がある。正の側面として知られているのが「衛生仮説」である。本講義では衛生仮説関連研究の知見を、寄生虫症を中心に概説する。	長田

## ●授業計画

回	項目	内容	担当教員
6	産業保健政策、産業医活動の倫理	1) わが国における産業保健に関する政策の歴史と特徴を概説する。 2) 労働衛生分野で適用されるリスクアセスメントの概念について概説する。 3) 産業現場で優先的に取り組むべき課題を指摘し、近年の対策動向を概説する。 4) 産業医に期待する専門性と倫理について、企業と労働者との利害バランス及び就業と健康との倫理ジレンマに触れながら概説する。	堀江 (永野)
7	職場のメンタルヘルス	職場のメンタルヘルスをマネージする上での基本的な精神疾患の知識や診断・治療方針などについて学ぶ。精神疾患の臨床薬理学的な基本的知識についても学ぶ。職場のメンタルヘルスをめぐる諸問題や昨今の動向についても取り上げる。	新開
8	産業人間工学	労働衛生の3管理の一つである作業管理の実践に必要な産業人間工学について概説する。災害性腰痛への対策として、新たに日本産業規格化もされた腰痛リスク評価法の解説のほか、包括的なアプローチによる対策実施の視点など、研究と産業保健の臨床に役立つ最新動向を身につける。	榎原
9	化学物質による産業中毒の現状と課題	化学物質、特に産業化学物質の曝露によって生じる産業中毒について、日本における代表的な事例とともにその毒性ならびに毒性機序について概説する。また当該化学物質に関連した法令等についても説明し、現在の日本における化学物質の管理体系を理解する。さらに動物モデルを用いた毒性評価方法を紹介し、これを踏まえて現行の毒性評価試験に関する今後の課題について理解する。	上野